（第３種郵便物認可）　プレス空知　２０２５年(令和７年)１１月２９日(土曜日)

学校法人国学院大学の公式ホームページでは、傘下各校の行事や取り組み等を公開しています。
左記の二次元コードからぜひご覧ください。

学報 News CATY（ニュース キャティ）

２０２５年11月 第166号

発行／国学院大学
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
広報委員長　菅原　健太

滝川の味 東京で好評

若木祭で「ジンギスカンうどん」提供

滝川商工会議所などが支援 学生たちが模擬店

国学院大学の渋谷キャンパスで11月1日と2日に開催された「第143回若木祭」（学校祭）において、本学から国学院大学へ編入学した学生が集う「滝川会」の学生と、本学の学生2名が、滝川市の名物である松尾ジンギスカンを用いて「ジンギスカンうどん」の模擬店を出店しました。

「滝川会」は、本学から国学院大学へ編入学をした学生の親睦を目的とする大学公認の団体であり、若木祭での出店以外にも、本学が主催する学校説明会や、履修相談会への参加等の活動を行っています。

出店した2日間は秋晴れの天候に恵まれ、販売目標の200食を予定よりも早く完売してしまうほどの大盛況で、国学院大学の学生や教職員だけでなく、若木祭に訪れた多くの一般の方に滝川の味を堪能していただきました。

中には、本学や滝川市について興味を持って声を掛けてくださる方や、ジンギスカンうどんの味を気に入って両日購入してくださる方もいました。

「滝川会」と本学の学生らは、企画から販売に向けての準備を主体的に進めることの大変さを感じながらも、昨年本学から渋谷キャンパスに出向いてジンギスカンうどんを販売した、現在国学院大学3年生の2名の学生が中心となってチームワークを発揮し、好評のうちに2日間を締めくくりました。滝川市で2年間を共に過ごした仲間との繋がりは、かけがえのないものだと実感することができました。

今回の出店にあたり、滝川市役所からは地元企業の松尾ジンギスカンへの手配や調整にご協力いただきました。また、日頃より本学を支えてくださっている「国学院大学北海道短期大学部協力会」や「滝川商工会議所」、本学の同窓会組織「国学院大学北海道短期大学部ありす会」から多くの支援金をいただきました。心よりお礼申し上げます。

今後も、本学から国学院大学へ編入学した「滝川会」の学生が、本学と滝川市の魅力を継続して発信していきたいと思います。

山形県の伝統行事「芋煮会」を開催

北海道滝川で学生や教員が郷土料理に舌鼓

学生が学年を超えて交流、絆深める

本学は山形県出身者が多く、昨年に引き続き郷土料理の芋煮会を企画しました。学生生活に慣れた頃に、学年を超えて交流を深めるのが目的です。この会をきっかけに学生間の絆が強まり、より魅力的な学びができることを願っています。（総合教養学科助教／寺嶋将）

10月2日の昼休みに本学の中庭で芋煮会を開催した。芋煮会とは、山形県や宮城県などを中心に東北地方各地で行われる秋の季節行事である。山形県内の芋煮は大きく分け2種類の味付けと具材の違いがある。内陸側の「牛肉しょうゆ味」と日本海側の「豚肉みそ味」に分かれ、県内でもどちらがよりおいしいかの論争があるくらいである。芋煮論争があるくらいに熱く語ることのできる芋煮会は、山形県民にとって欠かせない行事となっている。今回の芋煮会では山形県内陸出身者が多いということで、牛肉しょうゆ味で芋煮を作成した。

山形県出身でゼミ生を中心にある寺嶋先生とゼミ生に、今年も芋煮会を開催することができた。当日は2つの大鍋を用意し、山形県出身のゼミ生を中心に各家庭の味を思い出しながら調理をした。食材の中でも、山形県のブランド牛である「米沢牛」と芋煮には欠かすことができない醤油「味マルジュウ」を使用し、本場の味を再現した。芋煮には各家庭によって様々な作法があり、少し残ったものにカレーとうどんを入れ、「芋煮カレーうどん」にして食べるなどがある。今回はそれも総合教養学科の学生や教職員の方々に提供し、多くの好評をもらった。

地元山形県から離れたこの滝川市で、故郷の味である芋煮をみんなで食べる機会をもらえ感激である。今後も学生間の交流ができる芋煮会を続けてもらいたい。（総合教養学科2年／小林美紅）

大河ドラマ『豊臣兄弟！』を一緒に楽しもう!!

12月から本学HPでコラムスタート

来年1月にスタートする大河ドラマ『豊臣兄弟！』に向けて、本年のオープンカレッジでは、国文学科 堀越祐一教授が講師を務め「NHK大河ドラマを先取りする－豊臣秀吉とその一族」を開講しました。秀吉の前半生や、秀吉をそばで支えた弟の秀長が果たした役割などを解説。ドラマの展開も想像しながら、受講生と一緒に楽しみました。

堀越教授は、国学院大学文学部史学科卒業、同大学院で歴史学の博士号を取得。織田信長や豊臣秀吉らが活躍した織豊期を専門としています。

ドラマのスタートに合わせ、本学ホームページでは12月から月一回（中旬頃）コラム「大河ドラマ『豊臣兄弟！』をより楽しむために」を連載。1月発行の本紙では、堀越教授の特集を掲載します！

主人公の秀長の目線で、時代背景や人物像、そして物語を一緒に楽しみましょう！

米国スプリングフィールド大学研修15周年

紙袋ランタン・カレーづくりで交流深まる

10月10日から30日まで、米国マサチューセッツ州スプリングフィールド大学にて短期留学研修を実施し、2名の学生と訪問しました。今年は教育連携15周年の節目であり、これまで培ってきた交流の成果を確認するとともに、新たな発展を見据える機会となりました。恒例の紙袋ランタンづくりでは、習字なども取り入れ日本文化を通じた交流がより深まりました。また、初開催の日本文化紹介イベント「Taste of Japan」では、学生が作った日本式カレーやけん玉体験が大きな反響を呼び、学生の発信力と協働性の成長がみえました。学生たちは授業参加やカヌー等のアウトドア教育などを通じて異文化理解を深めました。（国際交流委員長／田中一徳）

初めての海外研修でしたが、治安や食事面の不安もなく、安心して過ごせました。一方でトイレなどの生活面では日本との違いを感じ、異文化に触れる意義を実感しました。

スプリングフィールド大学では学生が温かく迎えてくださり、授業での活発な議論に強い刺激を受けました。紙袋ランタンづくりや「Taste of Japan」での日本式カレー、特技のけん玉は多くの学生に喜ばれ、大きな手応えと自信につながりました。さらに、日々の学生寮での交流を通じて視野が広がり、自分の考えを表現する力も向上したと感じています。

今回得た成功体験を今後の学びに生かしていきたいと考えています。（総合教養学科2年／大瀧澪於）

退職の教授ら招き和やかな懇談満喫

ありす会総会と懇談会

11月1日、札幌ガーデンパレスにて、同窓会総会・懇親会を開催いたしました。

森悟朗国文学科准教授、二ノ宮靖史総合教養学科教授、そしてご退職された名誉教授・播摩光壽先生、元総合教養学科教授・佐野博之先生、元幼児・児童教育学科教授・田代雄一先生をお招きし、和やかで楽しいひと時を過ごすことができました。

最後には全員で校歌斉唱を行いました。

次回の開催については、例年9月前後に発行している会報や、ありす会ホームページよりご確認ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

また、退職された先生方のご挨拶については、ありす会ホームページ内「恩師からのビデオレター」に掲載しておりますので、今回参加が叶わなかった皆様もぜひご覧ください。

1300年ぶりの接近「レモン彗星観測会!!」

日没後、本学403教室で、今年のイチオシ天体イベント「レモン彗星」の観測会を行いました。この企画は星好きの児童教育コースの学生との雑談から始まり、学生支援課のサポートで実現しました。告知ポスターやロコミで、本コースの他に国文学科や総合教養学科の学生も参加してくれました。当初、校外で観測する予定でしたが、滝川でもヒグマが出没しているため、学内から双眼鏡での観測となりました。

2回の実施のうち、1回目10月30日は曇り空でしたが、雲間からレモン彗星を観測できました。リベンジを期した2回目の11月5日は、日中晴れていたにも関わらず、日没後に西の空が厚い雲に覆われ、観測することが叶いませんでした。のべ20名ほどの参加でしたが、滝川に来てから夜空を見上げる機会が増えたという学生たちが集まり、天体談議で盛り上がりました。

箱根駅伝総合優勝に期待

国学院大陸上部駅伝チーム 滝川合宿の成果発揮を

9月2日から5日まで滝川で毎年恒例の合宿を行った、国学院大学陸上競技部 駅伝チーム。2日、滝川市役所前で開かれた到着式には約100人の市民や市職員の方々にお集まりいただき、前田康弘監督は「箱根駅伝で総合優勝を達成したい」と決意を表わしました。

10月13日に開催の大学三大駅伝初戦、出雲駅伝では2連覇！3度目の優勝を果たし、11月2日に開催の第二戦全日本大学駅伝では4位でゴールしました。

来年1月2、3日に開催される箱根駅伝でも、引き続きご声援のほど、よろしくお願いいたします！ぜひ、滝川合宿での成果を発揮してください。

小中学校の教員採用試験に10名が合格

教職の「國學院大學」の伝統を継承する本学では、2年間で小学校教諭二種と中学校教諭二種（国語・英語）の免許が取得できます。1年次には2日間の特別支援学校訪問、2年次には3週間の教育実習と5日間の介護等体験を経験し、本学を卒業する際に教員免許を取得しています。

その結果、毎年、教員採用試験の現役合格者を輩出しており、北海道内はもとより、全国各地で卒業生が教鞭を執っています。

今年度、小学校教員を養成する児童教育コースでは、一次選考検査を通過し、二次選考検査に臨んだ12名のうち小学校教員に8名が合格しており、来春から3名が教壇に立つ予定です。また、中学校教員を養成する国文学科と総合教養学科の教職課程では、全員が一次選考検査を通過し、二次に進んだ3名の中から国語教諭2名が合格しております。

小学校教職課程の13名、中学校教職課程の14名は編入学を希望しており、一種合格を目指して引き続き学修に励みます。

国学院大学北海道短期大学部

放課後進学相談会
12.4（木）
16：00～18：30（受付15：45～16：00）
お申し込みはこちら

令和８年度入試　2月試験出願受付期間
1.13（火）～1.29（木）
※詳細は国学院大学北海道短期大学部入学係にお問い合わせください